

解放旗に輝く青春

民青同盟員 6200人 読者1万人



第一次二ヶ年計画の二目標達成に全国の先進的役割をは
いた岩手県同盟に「解放旗」が渡され、大阪府同盟、
埼玉県同盟に「前進旗」が贈られた。

みんなで腕
を組み「♪わ
れら青年 平
和と幸もとめ
誓いは固く
われら戦い
ぬく」と
「全世界民主
青年の歌（全
民青）のうた」
を声高らかに
歌つたことを。
安保闘争の
あと60年代か
ら70年代にか

どこまでおぼえているだろうか。「若い仲間たち、私たち青年は、いま、すばらしい時代に生きている。歴史は、古いものから新しいものに、戦争から平和に、圧政から解放に、貧しさの原因を根こそぎなくしてしまう方向へに音を立てて流れている」という「青年同盟のよびかけ」に心躍らせてこ
とを。

随想 1枚の写真より

盛岡市 牛山靖夫



発行所
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
〒113-0034東京都文京区
湯島2-4-2全労連会館
国賠同盟岩手県本部
〒020-0013盛岡市愛宕町
17-4 牛山靖夫
T/F 019-623-8648

- ▼ 岩手の署名数 3409筆
- ▼ 第51回国会請願に参加して 三田村亜美子
- 24年度活動報告と運動方針（案）
- ▼ 学習会の案内・「治安維持法と現代」誌の紹介
- ▼ 女川原発再稼働を考える講演会のお知らせ

24年度 県本部大会の案内

日時：7月22日（月）10:00～15:00

場所：盛岡市勤労福祉会館

盛岡市紺屋町2-9 ☎019-654-3480



県・支部から出席要請も出しますが、会員は誰でも参加できます。ご相談ください。

けて、民主青年同盟（民青）を先頭に岩手の青年運動は大いにもりあがつた。

あれから60年が過ぎた。若者たちも年を重ね身体を傷めたり、病を抱えたりしているが、治安維持法同盟はもとより、各分野でしたたかに活動している。志をつらいている。そうした仲間たちに、是非見ていただきたい写真をようやく探し出すことができた。資料を探すのは、ますます眼がみえなくなつたのでもう限界だが、これだけは「不屈」に紹介してほしいと思っていた。

写真は、1965年岩手の民青が第9回全国大会で表彰されたときのものである。（大会決定集に掲載）

岩手は1963年の第8回全国大会でも表彰され、前進旗を得ており、2大会連続の大躍進であった。

4千5千6千と躍進し、最高時の現勢は民青同盟員が620人、民青新聞読者が1万人と資料にある。地区委員会は、久慈、二戸、安代、盛岡、花巻、北上、胆江、一関、東磐、遠野、釜石、岩泉、山田、宮古、気仙に結成され、専従者も10人を超えていた。

さらに拡大計画では目標は1万人をめざしていた。当時の内外情勢も青年をとりまく状況も、現在とは随分違っていた。早い話、スマホやマイカーはなかつたし、交通手段はオートバイやミニバイクだつた。

そうした中で同盟拡大の主力は、労働青年だつた。全県に職場をもつ自治体、県立病院、地方銀行を中心とした職場に班をつくり同盟員と民青新聞を増やしていく。学生は岩手大学に全学連の旗がひるがえり、すべての高校に班づくりを広げていった。

そして30万青年の要求実現にとりくんだ。主な活動には県公会堂を満員にした青年学生大集会、800人が参加した平和友

好祭のキャンプ、ベトナム戦争反対と人民支援、スポーツ祭典、自衛隊適格者名簿反対の5者共闘（民青、社青同、県労連青年部、岩大自治会、県青年団体協議会）、70年安保破棄青年行動隊、民青会館の新築などがあつた。

今年亡くなつた釜石の金崎安子さん（旧姓佐藤）は遠野の民青の専従者だつたし、県革新懇の加藤辰男さんは自治体労組の青年部長として、つねに青年学生の共同行動の代表者をつとめていた。

強大な同盟建設と同盟活動の原動力は「知は力」＝学習にあつた。「ものの見方考え方」や革新の立場について教えられ、むずかしい哲学（弁証法的唯物論や史的唯物論）や経済学「日本革命の展望」（宮本頤治著）について講義をうけた。

写真と一緒に民青のパンフ「社会のしくみ～歴史のすじみち」も出でた。思えばこのパンフが契機になつて、三閉伊一揆や岩手の社会運動に関心をよせることになつたのだった。まさに青年同盟の任務は「学べ、学べ、そして学べ」である。

解放旗と6200人の民青同盟、それは青春時代が輝いていた証（あかし）なのだ。多くの仲間にとつて、それは「新しい明日をめざす」人生の始まりでもあつただろう。一枚の写真をめぐる物語は、いまでも胸を熱くする。



追記　当時の青年運動に関係する

資料をお持ちの方は、ご寄付ください。まとめて民青に贈呈したいと思つています。

東北各県の署名数

県	個人署名	団体
青森	2743	100
岩手	3274	135
宮城	1523	115
秋田	1834	99
山形	5831	278
福島	570	0
合計	15775	727

二人で小沢一郎・階猛・高橋千鶴子衆議院議員と横沢高徳・岩渕友参議院議員の議員控え室を訪ね、署名を手渡して請願紹介議員のお願いしました。快く引き受けてくださいました。（階猛議員は不在でしたので中央本部に後日届けてもらうことになりました。）

東北各県の署名数は表のとおりです。山形県以外の5県は昨年に届かなかつたのですが、山形県の奮闘により合計数では昨年を上回りました。全国では昨年の111800筆を上回る14856筆となりました。

岩手の署名数 3409筆

個人署名3274筆 団体署名135筆
最後までご協力ありがとうございました

5月15日国会請願が行われました。岩手の個人署名は3274筆（団体署名は135筆）で、昨年は3482筆（団体署名139筆）でした。3000筆に届かないのではないかと心配しましたが、各同盟員、各支部の最後までの奮闘で、昨年に迫る到達となりました。皆様のご協力を感謝申し上げます。

三田村亜美子盛岡市議と田中館安子事務局長の二人で小沢一郎・階猛・高橋千鶴子衆議院議員と横沢高徳・岩渕友参議院議員の議員控え室を訪ね、署名を手渡して請願紹介議員のお願いしました。



国賠同盟によつて毎年取り組まれている51回目の国会請願が5月15日に行われ、全国から約140名が参加し、犠牲者や遺族の話に耳を傾けました。私は今回初参加させて頂き、東北ブロックからは11名が参加しました。

また会場には治安維持法の犠牲者である菱谷良一さん（102歳）がお元気に参加され、菱谷さんのお話に会場は大きな拍手で沸きました。

「治安維持法の犠牲者は国民全員であり、『治安維持法への反省』は全国民の課題」というお話を腹に落ちました。治安維持法が思想信条に関わらず、どれほど当時の人々を抑圧し苦しめたか、悪法が歯止めを失つた時代のことがさまざまと頭に浮かびました。



当時学生だった菱谷さんが絵を描いていただけで逮捕投獄された「生活図画事件」のように、会話ひとつ、口ずさむ歌ひとつ、持っている本、作文：生活のあらゆる場面で人々を委縮させ、そしてその無反省は今日の「戦争する国づくり」に向かっていることを実感しているのは私だけではないと思います。小沢一郎さんの秘書さんが「日本は戦争に向かっている」。

三田村亜美子



第51回国会請願に参加して

学習会の案内

日時 6月29日(土)13:30~15:30
場所 盛岡市中央公民館中会議室
内容 「治安維持法と現代」
2024春季号 NO.47より
研究報告
「小○の旗」を掲げて勝利した
三閉伊一揆170周年
~牛山靖夫論文を中心に~

「治安維持法と現代」47号の紹介

巻頭論文

自民党政治教育政策の功罪
~国家主義と新自由主義がもたらしたもの~

前川喜平

緊急事態改憲論の問題点

~「100年」の歴史から読み解く~

小沢隆一

経済安保秘密法案の危険な仕掛け~セキュリティ・クリアランスの法制化の問題点~

井原聰

他にも

五日市憲法の「千葉卓三郎記念碑」存続問題の現状
横田有史

治安維持法下の東北のたたかい、その今日的意義
土井洋彦

*昨年の東北ブロック集会の記念講演記録です。

全国の同盟の活動も紹介されています。

「治安維持法と現代」春と秋の年2回発行 168P
1000円 申込は事務局(090-9743-6123)まで

とんでもない。これを止めなきや!」と力を込めて語られたことに、連帯感と危機感が同時に沸き立つ思いでした。
私は日本共産党地方議員をつとめて現在2期目ですが、候補者にという話を聞いた時最初に思ったのは小林多喜二のイメージ。私も公安に監視されたり、拷問されたりすることもあり得るんだろうか?このような深刻でネガティブなイメージによる影響は、現代に生きる私たちにも無関係ではなく、「治安維持法への無反省」に端を発しています。「共産党は嫌われている」「共産党とは仲良くしない方がいい」という漠然としたイメージに、どれだけ尊厳を傷つけられてきたかは枚挙にいとまがありません。そしてそのイメージに翻弄されている人々も、突き詰めれば被害者ではないでしょうか。
しかしそうしたネガティブな暗い気持ちや、周囲の誤解や偏見

見を乗り越えて私の今があるのは、全国でこうして地道に、不屈に、戦い続けてきた組織と先輩達がいたからだということも実感できました。「弾圧や拷問なんて決して二度と絶対に起こしてはいけないものなんだ」という声と行動が、現代に続く私の漠然とした不安を吹き飛ばしてくれていたことを垣間見た思いです。この歴史と運動を、決して失ってはならない記憶を継承するリレーランナーの一人として、生きなければ。そう心に刻まれた第51回国会請願でした。

貴重な機会に送り出して下さった岩手県同盟の皆さんに、心より感謝申し上げます。

お知らせ

原発ゼロで生きる方法

ジャーナリスト 青木美希さんのお話

7月7日(日) 13:30~15:00

女川町生涯学習センター 講演会終了後町内パレード

ZOOMによるオンライン併用 ミーティングID: 819 6224 9201

パスコード: 338974

参加費無料

主催: 女川原発再稼働を考える講演会実行委員会 会長(高野博)

連絡先: 090-7932-4291(日野)

2024年 活動報告と運動方針（案）

国賠同盟岩手県本部

全国大会決定にもとづき、同盟の具体的目標である

- ①会員拡大
- ②国会請願署名
- ③顕彰と学習活動
- ④会費の納入
- ⑤機関紙「不屈」の県・支部での発行

について、提案します。

* 県大会の任務は次の通りです。

- ①現在の情勢のもとで、県同盟が果たすべき役割と任務を明らかにすること。
- ②県同盟の現状を総括して、活動と組織を前進させる方針を確認すること。
- ③県本部の役員を選出すること。

（一）私たちを取り巻く情勢

- 1. 2022年2月に開始されたロシアのウクライナへの侵略戦争が終息の目途もなく破壊と殺戮が続いている。そこへ昨年10月に始まつたイスラエルのガザ地区への無差別爆撃はジエノサイド（集団殺戮）ともいべき許すことのできない戦争犯罪です。どれだけ多くの犠牲を払えば戦争が終わるのか、武力行使による紛争解決は新たな憎しみを生むだけの戦争犯罪であること、国際紛争は戦争ではなく対話に寄つてこそ解決する、という国際的な反戦運動をもつともっと大きく広げていくことが求められています。

- 3. まさに「新たな戦前」が始まつて危険な情勢が進行している今、「再び戦争と暗黒政治を許さない」を掲げる国賠同盟の動が今こそ求められています。
- 北上支部が数年前から取り組んでいる、18歳の名簿を自衛隊に提供する問題について、盛岡市や滝沢市でも議会で取り上げ、盛岡市でも名簿の提供を望まない場合は名簿から除外する申請を受け付けることになりました。この事実を当事者と市民に広く知らせるとともに除外申請の問題点を明らかにし、名簿提供を中止させる活動を組織していくことが求められています。奈良市の18歳の高校生が市と国を相手に損害賠償を求めて提訴したRYU裁判に学び支援していきましょう。



2.

自民党政権は、昨年の安保3文書以降重要土地利用規制法、重要経済秘密保護法と弾圧立法を次々と成立させ、軍事費を増額し、戦闘機の共同開発や武器輸出にまで踏み込んでいます。自衛隊を米軍の共同指揮下に置くことも表明し、平和国家から軍事国家への転換が急速に強まっています。

一方、物価高騰による実質賃金の減少により国民の暮らしがかつてないほど困窮しています。国民の苦難に目を向けることもなく自民党はせつせと裏金によって私腹を肥やしてばかりです。公明党・維新を取り込んだ茶番劇のような政治資本規制法の改定に国民の怒りがかつてなく高まっています。

現行健康保険証の廃止、インボイス制度導入反対、消費税減税という国民の切実な要求に一切耳を傾げず数の力で悪法をgori押しする自民党政治は一刻も早く終らせることが求められています。

(二) 転換期を迎えた同盟活動

1. 内外情勢の大きな変化だけでなく、同盟の組織と活動も転換期を迎えています。

現在ご存命の犠牲者は100になる北海道の菱谷良一さんだけといわれています。岩手では2012年に九戸村の松浦繁蔵さんが102歳で亡くなり、犠牲者はいなくなりました。

同盟の目的は、犠牲者に対して国に謝罪と賠償をさせることです。のために、国家賠償法の制定を求めて国会請願署名を取り組んでいます。また犠牲者の「不屈のたたかいの歴史」を語りつぐ活動をしています。

犠牲者がいない同盟になると、これまでどおり国賠法の制定を求める請願でよいのか、会の名称もこのままでよいのかが問題となります。東北ブロック交流集会では以前から話題になっていました。今年の国会請願では、小沢一郎議員の秘書の宇田川氏からこの問題についての率直な疑問が出されました。

中央の議案では今回「2025年は治安維持法施行100年を迎えます。犠牲者の皆さんのが故人となられた現在、私たちの運動を次の世代にどう継承していくのか26年の第4回全国大会に向けて、名称を含めた同盟活動の進め方の議論を開始しようではありませんか。」と明記されました。率直な意見の交換を期待します。



(三) 活動報告と運動

一、国会請願署名

1. 全国では昨年を上回る11万4956筆（達成率32%）でした。岩手は3274筆（達成率82%）団体署名は135団体でした。

①各支部の状況

久慈支部 173筆（会員8名が24人の協力を得て集めました）

釜石支部 390筆（団体8筆）

北上支部 154筆（団体16筆）

②各団体の状況

新婦人の会県本部経由で集約された署名数は約523筆。これとは別に支部員が集約した署名も多くありました。

医大教職員労組 133筆をはじめ、いわて生協・母親大会・民医連、メーデーや各団体の集会・会議の場で署名に協力していました。

③会員の奮闘

多くの人に協力を要請して300筆近く集めた会員や今年は何筆集めると目標を決めて取組んだ会員など、1筆から100筆以上まで署名が届けられました。事務局の呼びかけに応え2度送つてくれた人もいました。5月に亡くなられた加藤辰男さんからも10筆送られてきました。

本人の1筆、夫婦の2筆、家族と近所の知人の5筆を毎年届けてくれる会員もあり、力をもらっています。

④反省と課題

たくさん署名を集める力持ちの会員がいる一方、「署名を集めること」に踏み出しができないでいる会員もいます。「不屈」を読んで署名を集め、「これが同盟活動の柱です。」と署名を集めて回つたという山形県元会長の取組みに学びたいと思います。

⑤地方議員の会員のみなさんへ

去年・今年と現職の全議員に特別に署名へのご協力をお願いしましたが、集めて届けていただいた議員は少數でした。

①治安維持法犠牲者は共産党員であつてもなくとも、党員・支持者とみなされて弾圧された人たちです。

②戦争と弾圧はスクラムを組んでやつてきます。

反共攻撃が強められている今、治安維持法犠牲者の「不屈の歴史」を学ぶことが求められています。多忙な活動の中にあります。同盟の署名の意義について考えていただき、お力を貸していただきたいと思います。

「同盟の語る不屈の歴史こそ共産党の戦前史なり（牛山）」

今年の署名目標は、

全県で4000筆と200団体、

各支部は500筆を 目指すこととします。

久

慈支部は500筆、釜石支部では1000筆を超えた」ともあります。北上・胆江支部での500筆への挑戦を期待します。

会員拡大の目標は、 次の全国大会までに全県で320人。

4

各支部は50人をめざすこととします。

会員拡大の目標は、

次の全国大会までに全県で320人。

会員拡大の目標は、 次の全国大会までに全県で320人。

4

1. 岩手では同盟と語る会・顕彰会が共催して、鶴彬のつどい（春は3月15日、秋は9月14日）と織田英雄顕彰会（11月から12月）を続けています。さらに多くの人たちに参加をよびかけましょう。

全国でも山本宣治、小林多喜二、伊藤千代子は有名ですが、同じように鶴彬も映画や小説、出版物があり、墓のある盛岡での顕彰活動は全国的にも重要です。

1. 同盟の目的のもう一つは、治安維持法犠牲者の「不屈のたたかいと抵抗の歴史」と岩手における「社会進歩と変革の歴史」を学び、語り継ぐことです。会員は先人の歴史を語りつぐ手もあります。

2. 全国では20000人の同盟をめざし、24年2月最高の16896人となっています。岩手では最高時の315人から

1人増の316人です。来年は治安維持法制定100年となります。「再び戦争と暗黒政治を許すな」のスローガンのもと広く訴える行動を起こしていきましょう。

3. 釜石（遠野）と北上で新会員を迎えていきます。

県常任理事会は会長・副会長・事務局長の3役を先頭に、10数人の新会員を迎えたが、それとほぼ同数の死亡・退会者がありました。同盟は高齢者が多いので、増やさなければ会員数は減るだけです。歴史を知つてほしい人、署名を広げてほしい人、そして自分より若い人に、入会を呼びかけましょう。会員拡大の前進は支部3役の決意にかかっています。鞄にいつも署名用紙と加入申込書をもつて歩き声をかけましよう。

上映権がなくても入場料の6割で上映会をすることが可能になりました。DVDは2週間借りることができます。後援会単位の小規模の上映会が可能です。是非企画しましょう。

また、県本部、胆江支部、北上支部で映画「武器なき斗い」の上映会が行われました。多くの人が鑑賞し感動を新たにしました。同盟活動を知らせる上でも、各支部で映画会を計画しましょう。県本部にあるDVDを貸し出しますので大いに活用してください。

3.『新しき明日をめざして』治安維持法等で弾圧された岩手の人びと』を増刷しました。新会員や各団体の役員などに普及するとともに、同書をテキストにした学習をすすめよう。

4.『治安維持法と現代』(年2回発行)をテキストに胆江支部や県女性部では学習会を続けてきました。今年は同誌の発行に合わせ県本部主催の学習会を企画していきます。同誌の購読と学習を広げましょう。

5.他団体とも共同して、学習講演会、歴史探訪ツアーや、もりおか歴史散歩などの活動に取組みましょう。

四、支部活動の活性化

釜石支部＝他団体と共同したスタンディング

北上支部＝自治体は青年の名簿を自衛隊に提出するなどの活動、胆江支部＝地元住民との共催による織田英雄顕彰会・歴探訪ツアーや、各支部独自の独自の活動を進めています。

会員の交流を深め、多彩な活動計画を実現しましょう。

五、女性部の活動

全国女性交流集会は11月10日(日)～11日(月)愛知県で、岩手県母親大会は10月27日(日)北上市で開催されます。

六、東北ブロック交流集会

今年は宮城県で開催されます。

10月15日(火)～16日(水)

記念講演

「治安維持法100年と山本宣治と東北(仮題)」

講師 永島民男さん(東京山宣会会長)

特別発言 村口至先生(元坂病院長)『お願い中』

映画「武器なき斗い」の山本宣治について理解を深める企

画となっています。

七、機関紙「不屈」の発行

「不屈」は同盟と会員を結ぶ動脈でありパイプです。

県では8P建ての発行を維持しています。

北上・胆江支部は定期発行しています。胆江では胆江の犠牲者を紹介する支部長の「宍戸先生の耳袋」を連載し、好評です。

「不屈」の記事への感想、声、文芸作品など会員の投稿をお願いします。

八、会費の納入

すべての会員が会費を納入しましょう。

会費は年4000円(家族会員2000円)中央上納は30%です。

各支部への還元は、ことしも50%とします。年末のカンパは、各支部では会員数×500円を県に上納できるように取組みましょう。

九、役員体制

体制の強化をはかり、

新しい体制を展望します。

